

令和4年度
鹿児島大学共同獣医学部学校推薦型選抜Ⅱ

小論文問題

この問題冊子は合図があるまで開かないこと。

この問題冊子は表紙、メモを含む4ページからなる。

印刷が不鮮明な場合や落丁等がある場合には挙手で監督者に知らせること。

問題は全部で2問である。2問とも回答すること。

<メモ>

問 1

以下の文章を読み、動物の遠隔診療（オンライン診療）について、あなたが考える遠隔診療の利点および欠点について、800字以内で記述しなさい。

畜産業は、我が国農業の基幹的部門へと成長を遂げてきており、飼養規模の拡大と集約化が進展する中で、家畜の伝染性疾病の予防や食品の安全、農家の収益性向上につながる獣医療の提供が求められている。これまでも、家畜の遠隔診療については、迅速かつ的確な診療を実現するために、飼育者から病状の聴取等をもって行う診察が行われてきたところであるが、産業動物獣医師の偏在や情報通信機器の高度化、普及等も踏まえ、遠隔診療の適時・適切な活用を推進することが重要となっている。

出典：農林水産省ホームページ、一部抜粋

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/zyui/attach/pdf/law-12.pdf>

問2

以下の文章を読み、「薬剤耐性」を防止するために獣医師が果たすべき役割について、800字以内で記述しなさい。

細菌による感染症は、人の健康にとって大きな問題です。人類の歴史において、感染症は人口の激減など大きな影響を及ぼしてきました。動物も、細菌による感染症により、成長が遅くなったり、死んでしまったりします。

今から100年近く前、細菌を殺したり、その生育を止めたりすることができる物質が発見され、感染症を治療できるようになりました。これらの物質を「抗菌性物質」といいます。抗菌性物質は、感染症の治療方法として極めて重要ですが、使われすぎたり、正しく使われないと、感染症の原因となる細菌に対して効果がなくなることがあります。細菌を殺したり生育を止めたりする効果がなくなること日本では「薬剤耐性」といいますが、英語では「抗微生物薬耐性」(Antimicrobial Resistance)と呼んでいます。

この薬剤耐性問題は、感染症対策に関連して、国連総会で各国の閣僚たちが議論するほどに世界中の関心を集めています。

出典：農林水産省ホームページ、一部改変抜粋

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/koukinzai.html>

問1

出題意図

本学のアドミッションポリシーでは、獣医師の幅広い職責について理解し、人と動物の健全な共生社会実現のために積極的に取り組む意思を有する人材が求められている。本設問では、遠隔診療の説明を行うことで、動物に対して行う獣医療についての基本的知識を確認するとともに、獣医療を順守するという倫理観についても評価する。

問2

出題意図

獣医師の社会における役割は多岐に渡っているが、その一つに公衆衛生に深く関わっていくことが求められている。特に、薬剤耐性に関する責務は重大であるので、それに対する理解とともに獣医師が果たすべき役割を問い、論理的な記述であるかを評価する。